

## 令和2年度 第3回宇治市男女共同参画審議会の会議録（要約版）

日時	令和3年1月22日（金）午後2時～3時50分
場所	宇治市生涯学習センター1階 第2ホール
出席委員	桂会長、藤本副会長、居原田委員、寺崎委員、中本委員、西村委員、長谷川委員、浜野委員、日野委員
事務局	福井人権環境部長、柏木男女共同参画課長、二木男女共同参画課主幹、山田男女共同参画課専門員
議題	<審議事項> ・宇治市男女共同参画計画「第5次UJIあさぎりプラン（初案）」に対する意見募集結果及び最終案について ・その他
傍聴者	3名

### 会議経過及び内容

（新型コロナウイルス感染症拡大によりオンラインと会場の併用で開催）

1. 部長あいさつ
2. 会長・副会長選出  
第8期委員の任期満了に伴い、第9期の委員に全ての委員が再任された。  
会長・副会長は互選により前期に引き続き、桂容子氏を会長に、藤本哲史氏を副会長に選出した。
3. 会長・副会長あいさつ
4. 議事  
〈宇治市男女共同参画計画「第5次UJIあさぎりプラン（初案）」に対する意見募集結果及び最終案について〉  
事務局から（資料1）「宇治市男女共同参画計画「第5次あさぎりプラン（初案）」に対して寄せられたご意見とそれに対する本市の考え方」を説明し、委員から次のとおり意見が出された。

### 主な意見

- パブリックコメントの回答は市のサイトに公表するのか。  
⇒サイトと紙ベースで公表することになっている。
- 全体の印象として、市民の方がよく考えてくださり、鋭い指摘が多い。そのわりに市の回答が消極的な印象がある。例えば「②-2」では「審議会の長は男性が多い 考えるべき」に対して「女性委員の割合増加と女性委員がいない審議会を無くすことに目標を設定して取り組む」だけでよいのか。「女性委員の割合増加と女性委員がいない審議会を無くすことに取り組むこととともに、ご指摘に対しても改善したい」ということを書かないと、指摘されたことを留保する姿勢に疑問を感じる。他には「②-3～5」にかかってくるが、「粘り強く取り組む」の表現では、暗に時間がかかることを示唆している。「粘り強く取り組む」のは当然であり、もっと前向きな表現で書いてほしい。

●パブリックコメントで本当に良い意見が出ている。「②-4」では「充て職以外での確な人物を職場の意見をまとめて選出することを検討する」とまで具体的な提案が書かれているが、これに対する市の回答が「女性の参画が進まない要因は、本計画に係る様々な要因があるものと考えています」というのは何のことか分からない。さらに「粘り強く取り組む」では、計画のなかでも非常に重要な政策・方針決定過程への女性の参画拡大に対して、具体的にどう取り組むのかわからない。例えば、充て職の問題なら、宇治市では事前協議で担当課と協議して頑張っている。原課と粘り強く交渉していくということだと思うが、審議会には法律設置か条例設置か要綱設置かによって制限があるが、法律設置の場合は難しいが、条例や要綱などの場合であれば、提案のようにもう少し踏み込まなければ進まない。

●これまでも粘り強くやってきて変わらないのだから、もっと方法を工夫しないと変わらない。前向きに変えていく方向で「市の考え方」を書いてほしい。

●とかくこうした計画は抽象的な書き方をされがちだが、パブリックコメントで「具体性がない」という意見が立て続けに出ている点に注目した。具体性がないままに進んでいくと市民からそっぽを向かれてしまうのではないかと心配する。実施計画で示していくということなので、その段階ではかなり具体的に示すべきである。

●「他-18」では意見の内容で、「被害」や「勇気」といった重い言葉が使われており、事務局の回答は的を外れている。

⇒審議会の女性割合を増やすことができないことに対して、どのように取り組めばよいか担当課とも協議しており、新しい手法の検討や、条例、要項を読み込むなどでどういう方法があるか検討したいと考えており、前向きな書き方にしたい。

「具体性が見えない」というご指摘については、毎年度実施計画を立て、審議会の委員にもご意見をいただきながら進行管理をしていくこととなる。「他-18」に関するご意見については、事務局としてどのように応えていけばよいか検討した結果であるが、会長と相談して再検討する。

●「他-19」の指摘は、よく読んでくださっているが、今回の計画では「重点課題」を設定しているので、第4次プランまでの取り組みと現状を踏まえたくうえで重点課題を設定しているので、そのような問題意識を共有できるような書き方にしたほうが良い。

●「①-12」の意見には、宇治市が男女共同参画に頑張ってきたことにも通じると思う。「女性相談とは別に、市民が自分たちの課題について語り合うことにより必要な講座の掘り起こしにもつながる。生きづらさを語り合える地域、コロナ禍で心身状態が良くない人も多くなっている自分の

声が届く居場所を作ってほしい」これが今後の地域づくりにつながることだと思う。女性も男性も自分の生きづらさを話せて、人とつながる場、こういう場を作るのが今後のプランの取り組みを通じてやっていくイメージである。宇治市でも相談やグループづくりをやっているが、何をどうやって行けばもっと地域の人々の居場所になるのか。私も答えはまだ分からない。

⇒答えの出にくいことだが、地域のなかで活躍いただくということで、チャレンジ相談や活動支援を行っている。地域に活かすことができないかということで、このような回答になっている。市としてできることを今後検討が必要である。

「市民等との協働の推進」を具体的施策として挙げている。関連課として男女共同参画課以外に3つの課を挙げている。男女共同参画の地域づくりが最終的に目指すべきところだと思う。具体的施策を掲げて、関連課との連携で一歩ずつ前に進んでいけたらと考えている。

●具体性の部分に関する提案だが、重点課題5つに対して、例えば各課題においてこういうことをやるという例を示すことで、ある程度わかりやすくなるのではないか。目標を示すだけでなく、その過程を具体的に示すことで具体性が高まると思われる。重点課題に対して具体的な取り組みを示すことである程度伝わるのではないか。

●いつごろにこのプランを公表するのか。すでに今までやっていることもあるので、具体的に示せる内容もあると思う。

⇒事業には予算が伴っている。平成元年は各課で167の関係施策を実施した。実施計画では、例えば講座の開催回数などを示している。

本プランでは、年次の実施計画を進捗管理するという考え方である。前回審議会からのご意見であるので、表現について検討させていただく。

●いま言われたことを書いてはどうか。いまの段階で「何をやるか」を書けないのであれば、どのように進めていくかということを書き込んで書いてはどうか。

●新たな取組ではなく、いままですでにやってきていることを書き込んでどうかということだ。実際に色々なことをやっているのだから、それらを示すことで理解しやすくなるのではないか。

⇒計画第3章 P55 に計画の進行管理については記載している。ここに書いていることを前のページに持ってくるのがよいか。

●P55 に具体的に書いてあるが、重点課題のところ整理したかたちで、重要なことは重複しても記載して良いと考える。

●移動させるのではなく、重点課題でも触れておいてはどうか。

⇒重点課題については、パブリックコメントを受けて追記をしている。その次に追記する方向で検討する。

●実際に事業を行うのは、各担当課であるので書きにくいところもあると思うが、男女共同参画を進めていく主体となる男女共同参画課として何が重要かを考えて、そのために重点課題も設定しているので、こういうイメージで施策をやれば進むということを書かなければいけない。そのイメージを具体化するように担当課と調整しながら進めていくことが必要で、待ちの姿勢ではいけない。

●男女共同参画については、担当課がリーダーシップをもって他の課に働きかけないといけないということだ。プランを発表したあとでプランの勉強会はしないのか。プランの意図を市民に伝える学習会があれば、熱心な市民は関心があると思う。

⇒計画の P53 具体的施策 91 の学習機会の提供や、92 の女性問題アドバイザーの派遣などで計画の啓発推進にかかわる取り組みを予定している。

●パブリックコメントを読んでいて、プラン自体を説明する会を実施しても良いのではないかと思った。

⇒あさぎりネットワーク会議の総会に毎回出向いている。他にも機会あるごとに計画の周知に努めたい。計画のお披露目というかたちの機会も特化して考えていきたい。また、概要版 2000 部を活用して計画の周知に努める。

●お披露目会を考えておられるのは良い。是非実現したら良い。

事務局から（資料 2）（資料 2 追加）「宇治市男女共同参画計画「第 5 次あさぎりプラン（初案）」の修正箇所」を説明し、委員から次のとおり意見が出された。

### 主な意見

●P20「エンパワーメント」の説明に「女性」とあるが、女性に限定したことではないと思うので「エンパワーメント」の解説なら「女性」を取るべきではないか。

●もともと開発途上国などで、自分の持つ力を発揮できない状況におかれている女性の問題から「エンパワーメント」の言葉が使われるようになった。男女共同参画の分野では「女性のエンパワーメント」に意味がある。違和感があるなら注釈を加えたらどうか。

⇒第 4 次プランでは「本計画では」の言葉が入っているので、そのようにしてよいか。

●「本計画では」は、「エンパワーメント」が使われるようになった経緯を考えると「逃げ」になる。

違和感は解消されるが、できたら経緯を踏まえてほしい。

⇒書き方については検討する。

- P20「広報啓発の手法や内容については、年次に作成する実施計画で、効果的に実施します」の文章がずっと入ってこない。「広報啓発の手法や内容については、年次計画で具体的に示し、効果的に広報啓発を行います」ではどうか。

⇒そのように変更する。

- 「女性に対するあらゆる暴力の根絶」とDV対策基本計画である「配偶者等に対する暴力の根絶」を分けたのは充実したと評価している。ただ、P21は初案では「男性の家事・育児・介護等への参画」であったのが「男性・女性共同による家事・育児・介護等の推進」となっている。かつて「男性も女性も一緒に家事・育児をしましょう」と言っていた時代に引き戻された字面であると感じる。共同するのは当たり前で、それが進んでいないから「男性の家事・育児・介護等への参画」をわざわざ取り出して項目にしたと思う。それが変わったのは違和感が強い。「参画」は女性がやっていることに男性が協力するという意味ではない。それは「参加」である。ただの「参加」は主体的な活動ではない。そうではなく、計画や意思決定まで一緒にやるのが「参画」なので「参画」となった趣旨を踏まえていない。P21の重点課題の項目は、家事・育児・介護が女性に偏っているのを改善する趣旨である。この項目の表現は初案で良かったのにとというのが意見。

- ひとつの案として「家事・育児・介護の場における男女共同参画の推進」なら、少し変わるかと思う。介護は今後大変になっていくので、「さらなる推進」としてはどうか。「男性・女性共同による」は昔に戻った印象というのはよく分かる。

- その言い換えなら納得できる。

- 私も「男性・女性共同」はイメージが分かりにくい。家庭内でどのように関わっていくかが大事なので「共同」よりは「参画」表現がふさわしい。「共同」のほうが分かりにくい。

- 「共同参画」と使うときと「共同」と「参画」を分けるときで意味が異なるのか。「男女共同参画」をひとつの言葉として理解していた。

- 事務局で「参画」を取った理由を説明してほしい。

⇒「参画」が「参加」と同じようなニュアンスととらえた。ここは同じ立場で一緒にするという意図でこの表現とした。

- 「男性・女性の共同参画」をあえて「参画」を取ったということか。

⇒「男性」だけであったので、「女性と共同で」という意味を含めた。「家事・育児・介護の場における男女共同参画のさらなる推進」というような形で検討する。

●「共同」ではあまりにも弱いので変えていただきたい。

「男性・女性が共に」の「・」に意味があるように感じて気になる。「男女が共に」としてはどうか。

⇒「男女が共に」に変更する。

●P47 新型コロナウイルス感染拡大の影響のところで「考慮する必要もある」を「必要がある」としてはどうか。

⇒「が」に変更する。

●同じページの「困難な状況を抱えた女性等への支援と多様性を尊重する社会づくり」に関連して、P21の「(4) 困難を抱える女性への支援」の内容が女性に対する暴力の内容なので、「女性に対する暴力の根絶」に表題を変えてはどうか。

⇒その方向で調整する。

●P19 体系図の重点課題の3つ目は本文の修正と連動する。

⇒3番目と4番目は、本文の修正と連動して変更する。

●P20 (1) 「無意識の偏見」は「無意識な偏見」ではないか。

⇒国の計画で「無意識の思い込み」という表現になっており準じている。

●今日の会議が終わった後も、今日明日くらいなら意見を受け付けられるか。

⇒変更意見が出てきたときは、会長と調整して変更する。